

学術の中長期研究戦略に関する研究会

日本学術会議では、2023年に策定した提言「未来の学術振興構想(2023年版)」の改訂に向けて、19の「グランドビジョン」の実現のために必要な「学術の中長期研究戦略」を追加募集するとともに、「未来の学術振興構想」に掲載した「学術の中長期研究戦略」の「学術研究構想」の進展等に伴う改訂を行います。

このグランドビジョンに掲載されている2つのビジョン、「プラズマ物理の学際的展開—集団現象の理解に向けて—」は研究所が責任を持って取り組む計画であり、また「フィジカル空間とサイバー空間を融合した“未来を見る望遠鏡”(タイトルを改訂)」は研究所が貢献していこうとする計画です。

議事:

1. はじめに 吉田善章
2. プラズマ物理の学際的展開—集団現象の理解に向けて— 山田弘司
3. フィジカル空間とサイバー空間を融合した“未来を見る望遠鏡”

中村浩章 [剣持貴弘(日本シミュレーション学会長)代理]

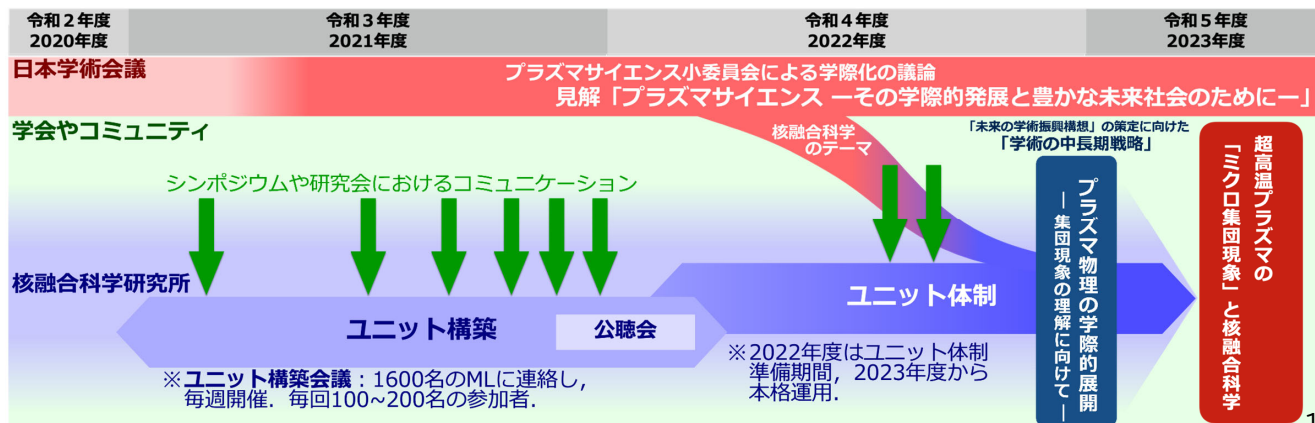
2025年8月29日 Zoomにて

0



国内の研究者コミュニティにおける検討経緯

- 日本学術会議・プラズマサイエンス小委員会における俯瞰的議論によって、**日本学術会議から見解が発出**
 - プラズマサイエンスの将来を展望し、同時に一般物理学としての学際的な展開について戦略を立案し発信
- 日本学術会議「**未来の学術振興構想**」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」として、**「プラズマ物理の学際的展開—集団現象の理解に向けて—」を提案**
 - 宇宙の万物は、原子などの粒子が複雑な動きをすることで成り立っている。宇宙の典型的な物質状態である「プラズマ」に現れる多様な複雑現象は、「集団現象」の研究にとって絶好の対象
- 全国の研究者が参加し、2年間の議論を経て10の「**ユニット**」を構築
 - 若手研究者(30代~40代)が議論をリード。**ユニットを立ち上げたリーダーの平均年齢は45歳**。メンバーの半数は所外
- ユニットが連携した『**超高温プラズマの「マイクロ集団現象」と核融合科学**』が**ロードマップ2023**に掲載



1